

日本栄養・食糧学会中部支部

平成 26 年度 第 1 回 参与会 次第

日 時 平成 26 年 7 月 12 日（土曜日） 12 : 00～13 : 00
場 所 静岡県立大学 看護学部棟 4 階 13413-13414
出席者 小川宣子、小原章裕、下村吉治、津田孝範、長岡利、早川享志、早瀬和利、
堀尾文彦、渡辺達夫、合田敏尚、三嶋智之、村上太郎、寺島健彦、
本間一江、新井英一（順不同）合計 15 名

議 題

I 審議事項

1. 平成 25 年度事業報告（資料 1）（津田前庶務幹事）
2. 平成 25 年度会計報告（資料 2）（堀尾前支部長）
3. 平成 25 年度会計監査報告（資料 3）（堀尾前支部長）
4. 平成 26 年度事業計画（資料 4）（合田支部長）
5. 平成 26 年度予算（資料 5）（本間会計幹事）
6. その他

II 報告事項

1. 平成 26、27 年度参与・代議員（資料 6）（新井庶務幹事）
2. 平成 26 年度支部特別協賛団体（資料 7）（新井庶務幹事）
3. 理事会報告（資料 8）（早川理事）
4. その他

平成 25 年度事業報告

(資料 1)

1. 支部大会

(1) 第 65 回支部大会

日 時 平成 25 年 11 月 30 日(土) 13:20~17:05

会 場 名古屋大学 農学部第 3 講義室

公開シンポジウム

「薬学領域からの栄養・食糧学へのアプローチ」

13:20 開会の挨拶

13:25 『医薬品と食品との相互作用』

城西大学薬学部 和田 政裕

14:15 『効率的カテキンプローブ合成を基盤とする動態解析』

静岡県立大学薬学部 菅 敏幸

休 憩 (15:05~15:20)

15:20 『高い脳神経疾患改善作用を示す新規 2-デセン酸誘導体の開発』

岐阜薬科大学 古川 昭栄

16:10 『イン・シリコ創薬技術と栄養・食糧学研究

- Structure-Based Drug Design 手法の適用 -』

北里大学薬学部 広野 修一

17:10~18:30 懇親会 (工学部 ES 館 1 階 ES 会議室)

(講演会参加者 55 名、懇親会参加者 32 名)

2. 参与会

(1) 平成 25 年度第 1 回参与会

日 時 平成 25 年 5 月 25 日(土) 12:00~12:40

会 場 名古屋大学 豊田講堂第 1 会議室

(2) 平成 25 年度第 2 回参与会

日 時 平成 25 年 11 月 30 日(土) 12:00~12:45

会 場 名古屋大学 農学部第 1 講義室

平成 25 年度会計報告

(資料 2)

収支計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

支部長	会計担当
	

公益社団法人 日本栄養・食糧学会
公益目的事業会計

中部支部
(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
事業収入				
支部大会事業収入	40,000	41,000	-1,000	
寄付金収入	160,000	150,000	10,000	
雑収入				
受取利息収入	0	0	0	
事業活動収入計	200,000	191,000	9,000	
2. 補助金収入				
中部支部補助金(基本)	350,000	350,000	0	
中部支部補助金(会員数)	147,000	144,600	2,400	
学会活動強化費	60,000	0	60,000	
補助金収入計	557,000	494,600	62,400	
3. 事業活動支出				
事業費支出	726,400	640,649	85,751	
臨時雇賃金支出	76,000	47,200	28,800	
会議費支出	142,500	182,022	-39,522	
旅費交通費支出	142,500	118,040	24,460	
通信運搬費支出	19,000	20,704	-1,704	
消耗什器備品費支出	76,000	5,172	70,828	
印刷製本費支出	38,000	39,165	-1,165	
会場費支出	19,000	5,754	13,246	
諸謝金支出	126,000	133,612	-7,612	
広報費支出	85,500	86,100	-600	
手数料支出	1,900	2,880	-980	
事業活動支出計	726,400	640,649	85,751	
事業活動収支差額	-526,400	-449,649	-76,751	
当期収支差額	-526,400	-449,649	-76,751	
前期繰越収支差額	650,383	650,383		期初本部より送金
補助金収入	557,000	494,600		
次期繰越収支差額	680,983	695,334		期末本部へ送金(注)

(注)次期繰越収支差額 695,334 円 は期末日に本部に送金するので、期末日の支部現預金残高は0となる。
翌期初、本部より同額を支部へ送金する。

平成 25 年度は本会(全国大会)も名古屋で開催されたため、学会活動費強化費を申請せずに支部活動の運営を行った。

平成 25 年度会計監査報告

(資料 3)


平成 25 年度監査報告

平成 26 年 5 月 1 日

公益社団法人日本栄養・食糧学会 中部支部
支部長 堀尾 文彦 殿

公益社団法人日本栄養・食糧学会
中部支部

監事

小田裕昭 

平成 25 年度収支計算書について、関係書類とともにその内容を監査した結果、正当であると認めます。

以上

平成 26 年度事業計画

(資料 4)

1. 支部大会

(1) 第 66 回支部大会

日 時 平成 26 年 7 月 12 日 (土) 13 時 20 分から
会 場 静岡県立大学
内 容 受賞記念講演、公開シンポジウム「日本人の食を考える!!」

(2) 第 67 回支部大会

日 時 平成 26 年 11 月 22 日 (土) 予定
会 場 静岡県立大学
内 容 一般講演 (予定)

2. 参与会

(1) 平成 26 年度第 1 回参与会

日 時 平成 26 年 7 月 12 日 (土) 12:00-13:00
会 場 静岡県立大学看護学部棟

(2) 平成 26 年度第 2 回参与会

日 時 平成 26 年 11 月 22 日 (土) 予定
会 場 静岡県立大学看護学部棟

平成 26 年度予算

(資料 5)

平成 26年度日本栄養・食糧学会 中部支部収支予算計画書

平成 26年4月1日より平成 27年3月31日まで

収入の部 (単位:円)			
科 目	予算額	備 考	コメント
事業収入			
参加費	0		支部大会・シンポジウム等参加費
協賛金	150,000	10,000 × 15社	企業・団体からうけるもの
補助金	0		公の機関から受けるもの
懇親会負担金	80,000	2,000 × 40名	
要旨集売上	0		
本部前途金			
会費の配分費	497,600	350,000+147,600	基本補助金+会員数別補助金
学会活動強化費	300,000		
雑収入	0		
預金利息	0		
その他の収入	0		
当期収入合計(A)	1,027,600		
支出の部			
科 目	予算額	備 考	コメント
事業費			
支部大会・講演会開催費			
臨時雇賃金	80,000		参与会、支部会開催時アルバイト
会場費	20,000	会場費、看板代	会場の賃借料、備品の賃借
会議費	280,000		
旅費・交通費	180,000		講師旅費
通信運搬費	25,000		開催案内発送など
消耗什器備品費	30,000		トナー、紙、ラベルシール、文房具
印刷製本費	100,000	要旨集代	支部封筒印刷など
委託費	90,000	HP管理費	
諸謝金	220,000		講師講演料、税金
他学会協賛金	0		
広報費	0		
支払手数料	2,000	振り込み手数料	
雑費	0		
本部会計繰出金			
当期支出合計 (B)	1,027,000		
当期収支差額 (A)-(B)	600		

収入の部 会員数の減少に伴い、147,600→134,400 円に修正が報告された。

平成 26、27 年度支部参与、代議員、本部理事 (資料 6)

阿部稚里	三重短期大学	寺島健彦	常葉大学
池田彩子	名古屋学芸大学	★長岡 利	岐阜大学
石原健吾	椛山女学園大学	中島久男	日本大学
和泉秀彦	名古屋学芸大学	★早川享志	岐阜大学
榎本俊樹	石川県立大学	★早瀬和利	愛知教育大学
大澤俊彦	愛知学院大学	古市幸生	名古屋女子大学
大森正英	東海学院大学	☆★堀尾文彦	名古屋大学
★小川宣子	中部大学	★松田 幹	名古屋大学
★小田裕昭	名古屋大学	三浦進司	静岡県立大学
★小原章裕	名城大学	三嶋智之	岐阜医療科学大学
☆合田敏尚	静岡県立大学	三宅義明	東海学園大学
齐藤慎一		村上太郎	至学館大学
佐藤祐造	愛知学院大学	★森田達也	静岡大学
☆★下村吉治	名古屋大学	森山三千江	愛知学泉大学
杉山公男		★森脇久隆	岐阜大学
鈴木 公	名古屋経済大学	山本由喜子	東海学園大学
★竹内弘幸	富山短期大学	★横越英彦	中部大学
辻とみ子	名古屋文理大学	★横澤隆子	富山大学
辻岡和代	桜花学園大学	★渡辺達夫	静岡県立大学
★津田孝範	中部大学		

支部参与	39 名
★代議員	16 名
☆本部理事	3 名

平成 26、27 年度支部役員

支 部 長	合田 敏尚 (静岡県立大学食品栄養科学部)
副支部長	長岡 利 (岐阜大学応用生物科学部)
支部幹事 (庶務)	新井 英一 (静岡県立大学食品栄養科学部)
支部幹事 (会計)	本間 一江 (静岡県立大学食品栄養科学部)
支部監事	渡辺 達夫 (静岡県立大学食品栄養科学部)

愛知ヨーク株式会社

味の素株式会社名古屋支社

株式会社伊藤園中央研究所

イチビキ株式会社

大塚製薬株式会社名古屋支店

花王株式会社ヘルスケア第一研究所

一般社団法人日本食品安全協会

サンエイ糖化株式会社

株式会社Jオイルミルズ

中部飼料株式会社

株式会社東洋発酵

フジ日本精糖株式会社

ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

マルサンアイ株式会社

株式会社 Mizkan Holdings

2014.7.12

理事会開催日：

平成 26 年 1 月 25 日 (平成 25 年度第 4 回理事会)

平成 26 年 3 月 21 日 (平成 25 年度第 5 回理事会)

平成 26 年 5 月 3 日 (平成 26 年度第 1 回理事会)

平成 25 年 5 月 29 日 (平成 26 年度第 2 回理事会)

1. 学会誌編集関係

1 月は投稿数がやや少なかったが、発行状況も概ね順調である。なお、学術著作権協会より、電子データについても権利管理を委託してほしい旨の提案を受けていること、団体会員の株式会社メテオより、学会誌掲載論文のメディカルオンラインへの転載に関して、電子データでの入稿の依頼を受けていることが報告された。これらの案件は、新理事会での審議となる。

2. JNSV 誌関係

10 年前は採択までの日数が 180 日を超えるものが 4 割ほどあったが、その後の 4 年で一桁推移しており、審査期間は順調に短縮され、120 日以内で約 70% が採択されている。低下していた採択率は上昇傾向であり、これは海外からの投稿の採択率の上昇と、審査日数の短縮化が寄与しているようである。代議員・参与には購読を義務としており、約 40 名の購読増加となった。消費税に伴い、頒布は 200 円アップし、8200 円/年となる。また、超過頁については、超過料金を徴収するが、投稿規程に記載することとした。平成 25 年度の収支決算は赤字であったが、これらで黒字化を予想している。投稿システムについては、J-STAGE を用いたオンライン審査システムを採用することを決定したが、申請開始時期は未定であること、査読者への謝礼を廃止するなど予算案を精査すること、投稿規程の変更を行うこと（濃度の表記の M は mol/L と表記させること、ダンカンマルチプルテストの使用は不可とすること、ジエチルエーテルの麻酔は不可とすること）が説明された。

3. 技術賞（仮称）検討状況

技術賞（仮称）の制定に関して、各種授賞等選考委員会に関する規程に本賞の規程を加える案および申し合わせを策定する案が提案され、承認された。選考スケジュールや、受賞講演の実施等については、今後検討することが確認された。

4. 用語委員会

新たに用語委員会を設置し、用語辞典委員会を引き継ぐこととなった。松井委員を中心として、用語辞典の改訂版の作成が鋭意進められている。理事会メンバーの協力も得て、9 月出版に向けて鋭意進行中である。

5. 利益相反 (COI) 委員会

松井委員長より、平成 24 年度第 4 回理事会から諮問された COI 指針ならびにその細則の改定に関して COI 委員会での検討が行われたこと、COI 委員会から理事会への答申が述べられたことについて報告があり、今後の理事会で十分な時間をかけて議論していただくよう求められた。

6. 名誉会員・終身会員に関する規定について

終身会員推薦の条件が厳格で、栄養科学・食糧科学および学会の発展に貢献された正会員を推薦できない事態が生じる恐れがあることため附則の項目を追加することが認められた。その後の理事会において終身会員推薦の追加が認められた。

7. 支部への予算配分

基本補助金は全支部 35 万円で統一、会員数別配分費は会員 1 名あたり 300 円を乗じて算出されることが承認された。

8. 大会等の日程について

第 69 回大会（鈴木和春先生）ACN2015 と連動してパシフィコ横浜にて開催

第 12 回アジア栄養学会議（ACN2015）（宮澤陽夫先生）

平成 27 年 5 月 14 日（木）～18 日（月）、パシフィコ横浜

参考：要旨募集は平成 26 年 8 月 5 日開始～11 月 5 日まで。

早期登録は平成 27 年 1 月 31 日まで、通常登録は平成 27 年 4 月 30 日まで。

第 70 回大会（中野長久先生）平成 28 年、武庫川女子大学において開催予定

平成 28 年 5 月 13 日（金）～15 日（日）

9. 事務局体制について

宮澤会長より、沖山敦氏（味の素株式会社）を 4 月 1 日より出向職員として受け入れ、学会事務局員兼 12th ACN2015 組織委員会事務局次長に任命する旨が述べられた。

報告者：早川享志